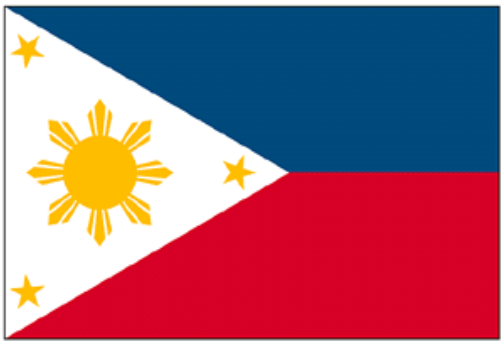
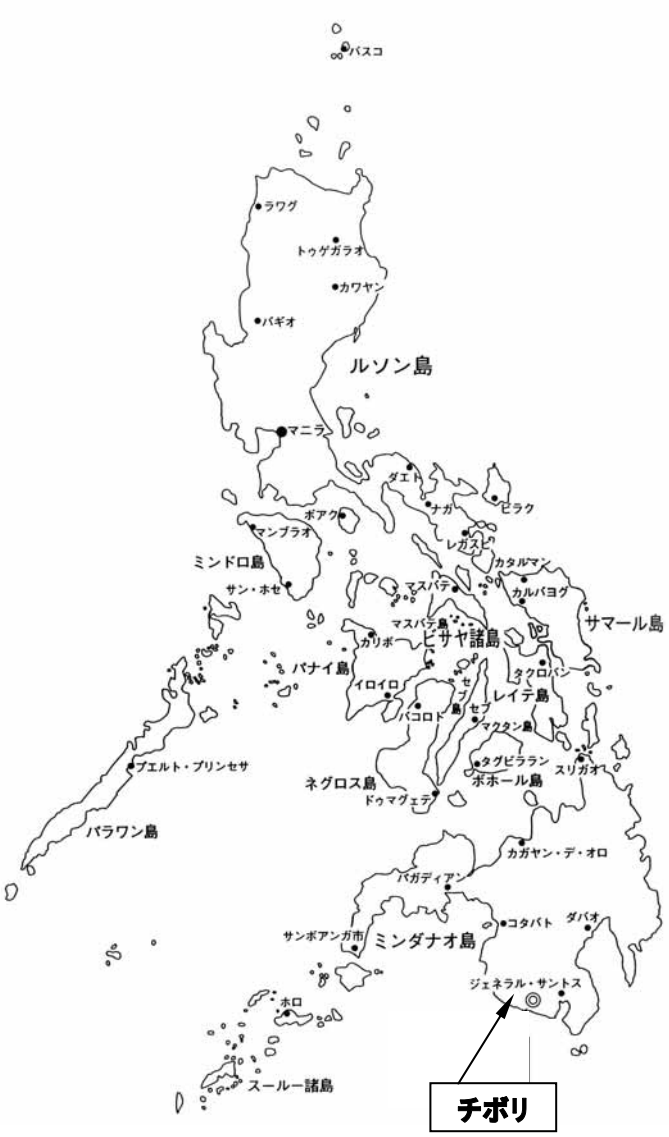
フィリピンをもっと知ろう（新連載）



フィリピンの国旗

太陽から8条の光は 最初にスペインに対して独立運動に立ち上がった8州（パンパンガ、ブラカン、リサール、カビテ、バタンガス、ラグナ、タルラック、ケソン）を、3つの星はルソン、ビサヤ、ミンダナオの3地方を表す。上部の青は高い政治目的、下部の赤は勇気、中央左の白は平和を表す。なお、戦時は赤を上にして掲げる。



フィリピンの独立

スペイン国王の命を受けて航海途中のマゼランは、サマール島に 1521 年 3 月 17 日に上陸。翌月の 14 日にはセブ島に十字架を建てた。

それから、スペイン支配は 300 年以上続いた。1889 年 4 月、アメリカ・スペイン戦争（米西戦争）が勃発した。同年 12 月パリでアメリカとスペインの間に和平条約が締結され、スペインによる植民地時代は終焉した。

スペインからの独立運動で軍事的な才能を発揮したアギナルドが若年 30 歳で初代大統領に就任。1899 年 1 月「マロロス憲法」を発布、第一次フィリピン共和国が誕生した。

この後、アメリカの占領により支配が始まった。アギナルドの革命政府はアメリカの意図に気づいて反抗した。強行のアメリカ軍は革命政府軍に発砲し 1899 年 2 月比米戦争が始まった。1899 年から 1902 年の比米戦争で、フィリピン人は 20 万人以上、アメリカ軍も 4,000 人以上が戦死している。

アメリカ支配時代（1898 ～ 1935 年）の 1934 年に制定されたのが、フィリピン独立法であるが、日本占領時代の（1941 ～1945 年）の短い時代を経て、1946 年 7 月 4 日共和国として独立した。他のアジア諸国との独立経緯と大きく異なる。日本は英語の教育をやめさせタガログ語を奨励し発展させたのは、僅かな貢献といえる。しかし、この日本の占領時代に抗日ゲリラ、アメリカ軍の再上陸による戦闘によって、日比双方に多くの犠牲が出た。

マニラ市内にはスペイン時代からの反支配独立闘争の記念碑や像が建てられている。

フィリピンの歴史の中のもっとも激動する時代は終わったが、献身的指導者たちや愛国の散文・詩はフィリピン人に愛されている。

国民的英雄・ホセ・リサール (1861～1896 年)

ホセ・リサールは医学・哲学・文学を学ぶためスペインに留学。1887 年スペイン語の小説『ノリ・メ・タンヘレ（我に触れるな)』を出版した。これは社会にセンセーションを巻き起こし、スペイン支配に反対する運動は高揚し、リサールは運動の中心人物となった。リサールは命をかけて帰国し「フィリピン同盟」を結成したが、スペイン当局により逮捕流刑された。

1896 年民族運動組織の「カプティオン」がマニラ北部で武装蜂起。リサールは革命の主謀者としてスペイン軍に捕らえられ、1896 年 12 月 30 日、マニラで処刑された。ホセ・リサールは革命家でカトリック教徒であり詩人でもあった。アメリカでフィリピン法案を審議しているとき、異論を唱える多くの議員を説得したのは、ヘンリー・クーパーによるホセ・リサールの詩「最後の別れ」の朗読と感動を与えた演説であった。「1902 年フィリピン法案」は上下両院を通過し、同年 7 月公布された。

ホセ・リサールは日本を訪れ６週間各地を訪問した。彼は日本人の勤勉さと正直さに感動した。案内役のおせいさん（白井勢井子）に恋をしたというエピソードもある。

当時滞在した東京ホテルは日比谷公園にあった。現在、そこに彼の石碑がある。

次回はホセ・リサールの詩「わが最後の別れ」を紹介します。(編集部)

(参考文献『フィリピンの人々』海外職業訓練協会)